

中小企業の業況は、依然厳しい状況にあり、来期設備投資は一段落する動きが見られる。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成22年10～12月期の実績と平成23年1～3月期見通しについての調査結果をまとめた。（回答率81%）本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

業況DI値について、前年同月比の今期（平成22年10～12月）の状況を集計したところ、全業種の業況判断DIは、マイナス増加で推移している。

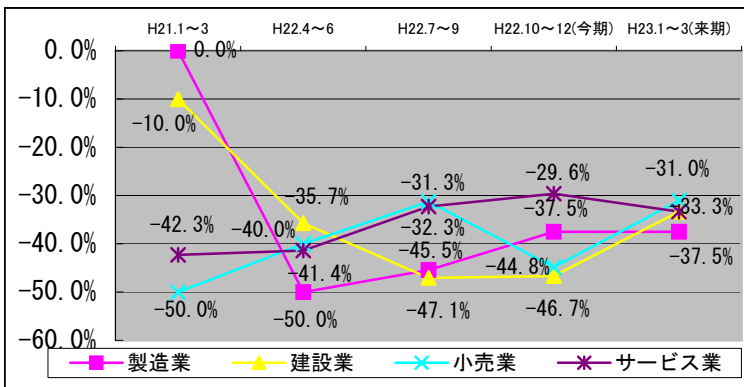
全業種のDI値に見る業況判断は製造業：▲45%→▲38%、建設業：▲47%→▲47%、小売業：▲31%→▲45%、サービス業：▲32%→▲30%となった。製造業・サービス業で、若干の回復がみられるが、小売業が悪化している。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の14.8%、来期設備投資を計画する見通しである企業は6.8%であった。また、今期の経営問題では、各業種とも需要停滞感が根強く、収益面で引き続き厳しい状況と見ている。円高や政策効果の息切れなどによる景気の減速も見込まれ、景気動向の不透明感は拭えない。

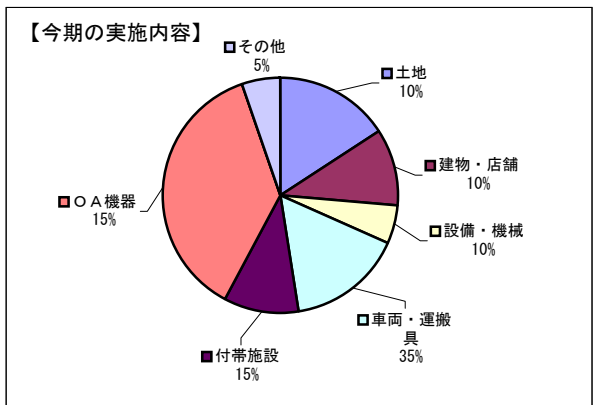
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-40%	↘	-43%	↘	-30%	↘	-4%	↘	-41%	↘	-6%	↗
製造業	-38%	↗	-25%	↗	-13%	↗	25%	↗	-38%	↗	0%	→
建設業	-47%	→	-50%	↘	-60%	↘	7%	↘	-53%	↗	-7%	↘
小売業	-45%	↘	-48%	↘	-31%	↘	-10%	↘	-48%	↘	-14%	↘
サービス業	-30%	↗	-37%	↘	-19%	↗	-7%	↗	-26%	↗	0%	↗

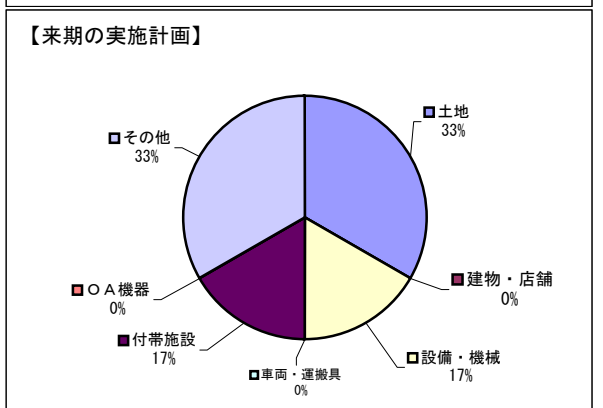
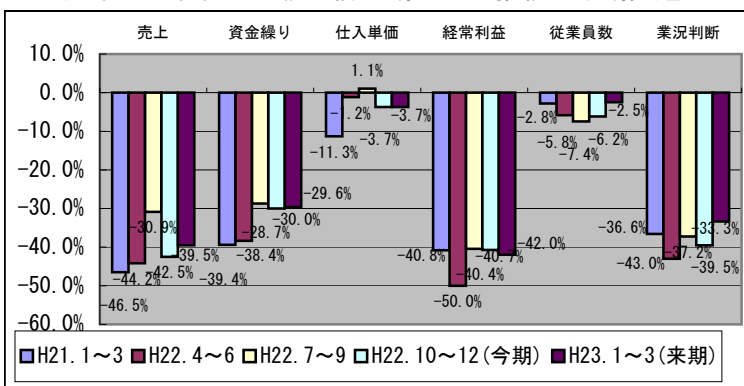
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



◆経営上の問題点

	製造業		建設業		小売業		サービス業	
1位	需要の停滞	21.1%	民間需要の停滞	30.3%	需要の停滞	21.0%	需要の停滞	26.6%
2位	取引条件の悪化	0.0%	官公需要の停滞	24.2%	購買力の他地域への流出	11.1%	利用者ニーズの変化への対応	20.3%
3位	生産設備の不足・老朽化	15.8%	請負単価の低下・上昇難	18.2%	販売単価の低下・上昇難	12.3%	利用料金の低下・上昇難	9.4%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。